

本特集について

李 曉 東

本特集は、2010年3月15日に島根県立大学で開催されたワークショップ「重層的アイデンティティと地域研究の高度化」の成果の一部である。

このワークショップを主催したのは、島根県立大学「交錯する北東アジアアイデンティティの諸相」研究会である。本研究会は、これまで宇野重昭前学長を中心に本学で組み込まれてきた「北東アジア学の創成」研究の成果を受け継ぎながら、学内の教員間の学術コミュニケーションをより活性化するために2009年に設立されたものである。研究会は、月例研究会の開催などを通じて「北東アジア学」をめぐる活発な議論を重ねた。研究メンバーたちが、政治、経済、国際関係、文化、歴史、そして思想史など、それぞれの専門分野から問題提起し、議論を盛り上げた。その成果を踏まえつつ、研究会は、2009年度末に、外部の研究者をも招いて本ワークショップを開催するに至った。

グローバル化時代の「北東アジア」に関する研究は、もはやこの地域に属する諸々の国家に対する研究の集合ではあり得ない。地域は国家の集合体だけでなく、文化、社会、そして歴史の交錯する場でもある。したがって、「北東アジア」というアイデンティティも異なる次元で異なった位相を呈している。このような重層的な「北東アジア」像を明らかにするには、従来の地域研究の方法だけでは大きな限界をもっているといわざるを得ない。北東アジアアイデンティティが交錯する諸相をよりダイナミックに捉えるために、地域研究の高度化が求められているのである。

以上の基本的認識を前提に、ワークショップでは、まず、宇野重昭氏と濱下武志氏による基調講演がなされた、両氏はそれぞれ巨視的観点から新しい地域研究のあり方について論じた。まず、本研究会の顧問でもある宇野重昭氏は、「多元的地域研究から超域研究を目指して」と題する講演のなかで、本学で取り組まれている「超域」研究の特徴を明らかにしながら、地域研究に立脚し、なお従来の地域研究の手法を超えた超域研究の重要性を論じて、新しい地域研究の方法を個別研究から普遍性に向けていき、個別のなかに普遍を見出そうという方向性を追求すべきだと力説した。

濱下武志氏の基調講演の演題は「グローバリゼーション下の地域研究の新たな課題」であった。そのなかで、濱下氏は、グローバリゼーションの進展のなかで求められている新しい地域研究のあり方を吟味し、体系性をもつシステム、そして、さまざまな文脈に基づく複数のネットワークとして、地域をとらえることの有効性を説いた。

それから、報告の部では、四人の報告者がそれぞれ「満州国」、「朝鮮族」、在日華僑、そして八重山と台湾との交流、いわば、「域を跨ぐ」現象を対象に、報告を行った。まず、今回の特集に収録されなかったが、本研究会のメンバー坂部晶子は、「非対称的なアイデンティティ（同一性）の狭間を読む—「満州国」の記憶の重層性を手がかりに」という題で報告し、植民者と被植民者の両者に存する多元的な記憶の諸相が織りなす記憶の重層性の中で植民地体験を再構築していくことの重要性を説いた。それから、権香淑氏は、「跨境民族としての〈朝鮮族〉—通時的移動とアイデンティティ」と題する報告のなかで、種々の境界が作為的にひかれて作りだされた「跨境」する朝鮮民族の歴史を概観し、「跨境」の視座をもち問題領域「間」の横断的考察の必要性を論じた。そのあと、同じく今回の特集に収録できなかったが渋谷玲奈氏は、「戦後留日華僑社会の形成にみるアイデンティティの多様性」と題する報告のなかで、政治的な配慮や、集合する人々の背景が交錯することなど、単純な中・台間の政治的分断では理解できない在日華僑のアイデンティティの複雑性を指摘した。最後に、上水流久彦氏は、「台湾東部と八重山との観光交流にみる自画像と他画像の差異」と題する報告のなかで、国民国家内部で生成された「自画像」がグローバリゼーションの中でも「越境」せず、結局他者との間のずれをもたらした、という事実注目して、安易なトランスナショナルイズムの議論を戒めた。以上の報告者はみなフィールドワークや聞き取り調査を重ねてきており、現場感覚を研ぎ澄ませているため、各報告はいずれもインパクトをもっている。しかも、諸報告の視点や研究対象が異なっているが、「アイデンティティ」の問題を真正面から取り上げ、その交錯性と重層性を強く意識している点では共通している。そのため、会議の議論が非常に充実しており、今後の北東アジア研究に資するものが多かった。

なお、ワークショップのプログラムは以下のとおりである。

【午前の部】

＜司会：李曉東（島根県立大学准教授）＞

挨拶 本田雄一（島根県立大学学長）

趣旨説明 李曉東

基調講演1 宇野重昭（島根県立大学名誉教授）

「多元的地域研究から超域研究を目指して」

基調講演2 濱下武志（龍谷大学「人間・科学・宗教研究センター」研究フェロー）

「グローバリゼーション下の地域研究の新たな課題」

【午後の部】

＜司会：唐燕霞（島根県立大学教授）＞

報告1 坂部晶子（島根県立大学准教授）

「非対称的なアイデンティティ（同一性）の狭間を読む

—「満洲国」の記憶の重層性を手がかりに」

コメント：井上治（鳥根県立大学教授）

報告2 権香淑（早稲田大学アジア研究機構客員研究員）

「跨境民族としての〈朝鮮族〉—通時的な移動とアイデンティティ」

コメント：福原裕二（鳥根県立大学准教授）

報告3 渋谷玲奈（大阪経済法科大学客員研究員）

「戦後留日華僑社会の形成にみる北東アジアのアイデンティティの多様性」

コメント：江口伸吾（鳥根県立大学准教授）

報告4 上水流久彦（県立広島大学助教）

「台湾東部と八重山との観光交流にみる自画像と他画像の差異」

コメント：佐藤壮（鳥根県立大学専任講師）

全体討論

(LI Xiaodong)